

---

平成29年

# 火災・救急・救助の概況



文化財消防訓練 高田別院

---

NIGATA JOETSU AREA FIRE DEPT.

上越地域消防事務組合

---

# 目次

## 火災編

---

1	火災発生状況	.....	1
2	火災の特徴	.....	2
3	出火原因	.....	4
4	火災による死傷者	.....	5
5	損害額の推移	.....	5
6	焼損面積の推移	.....	6
7	住宅火災の状況	.....	6
8	住宅用火災警報器	.....	7
9	火災状況比較	.....	10
10	管内地域別署所別火災状況比較	.....	11

## 救急編

---

1	救急出動状況	.....	12
2	救急搬送人員	.....	14
3	5年間の救急搬送人員の推移	.....	15

## 救助編

---

1	救助出動状況	.....	17
2	地域別救助出動状況	.....	18
3	地域別救助人員状況	.....	19
4	高速道路出動状況	.....	20

上越地域消防事務組合組織一覧	.....	23
----------------	-------	----

# 火災編

## 1 火災発生状況

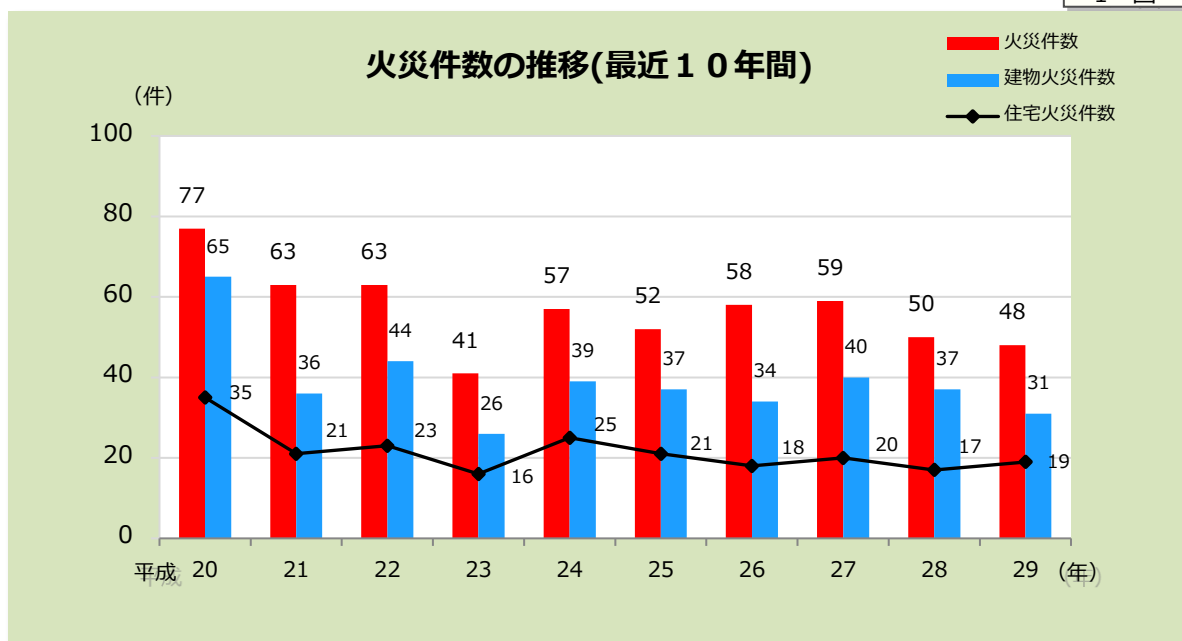
### 火災件数は48件

平成29年の火災件数は48件で、前年より2件減少しています。これは最近5年間で最も少ない件数です。建物火災は前年より6件の減少となっています（1表、1図）。

1 表

火災発生状況					
	平成28年 (件)	割合 (%)	平成29年 (件)	割合 (%)	増 減
火災件数	50	100	48	100	▲2
建物火災	37	74.0	31	64.6	▲6
(住宅火災)	(17)	(34.0)	(19)	(39.6)	(2)
林野火災	2	4.0	2	4.2	0
車両火災	6	12.0	8	16.7	2
その他火災	5	10.0	7	14.5	2

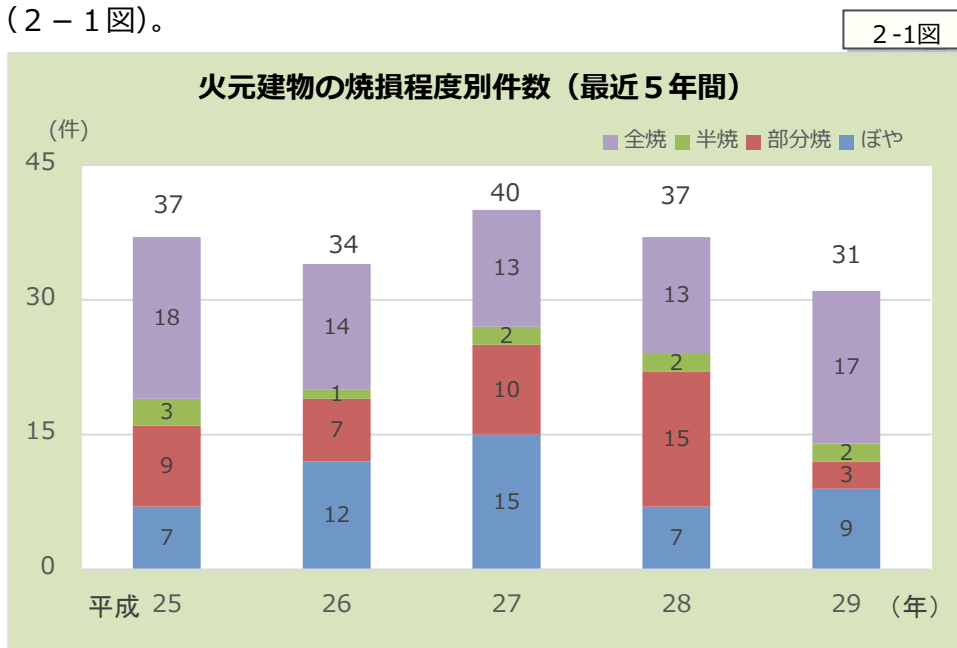
1 図



## 2 火災の特徴

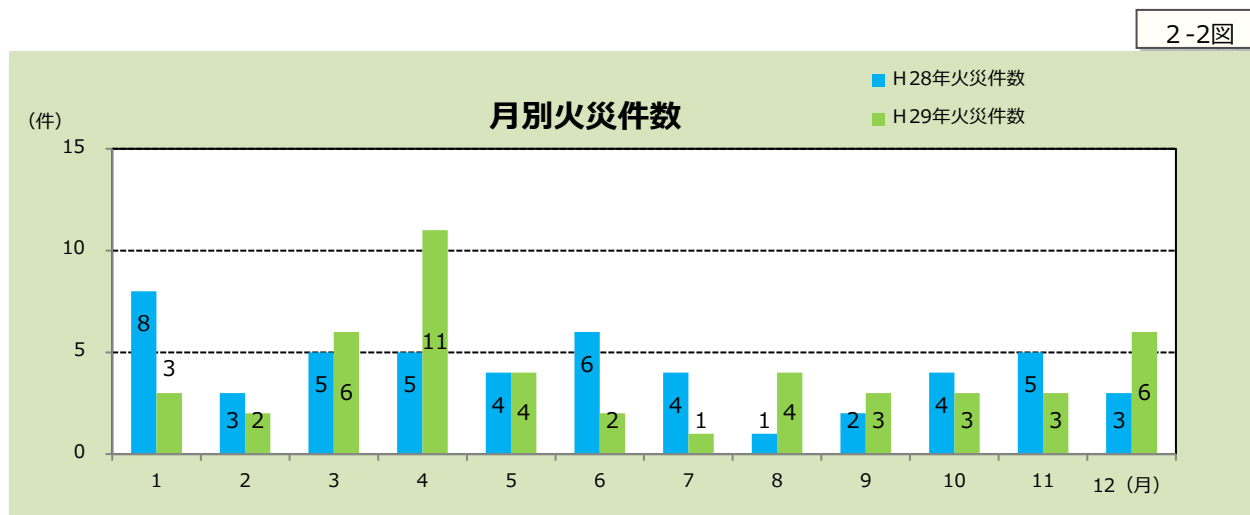
### 火元建物の焼損程度別件数

平成29年の火元建物を焼損程度別にみると、建物火災31件のうち、全焼が17件で55%と最も多くなっています（2-1図）。



### 月別火災発生状況

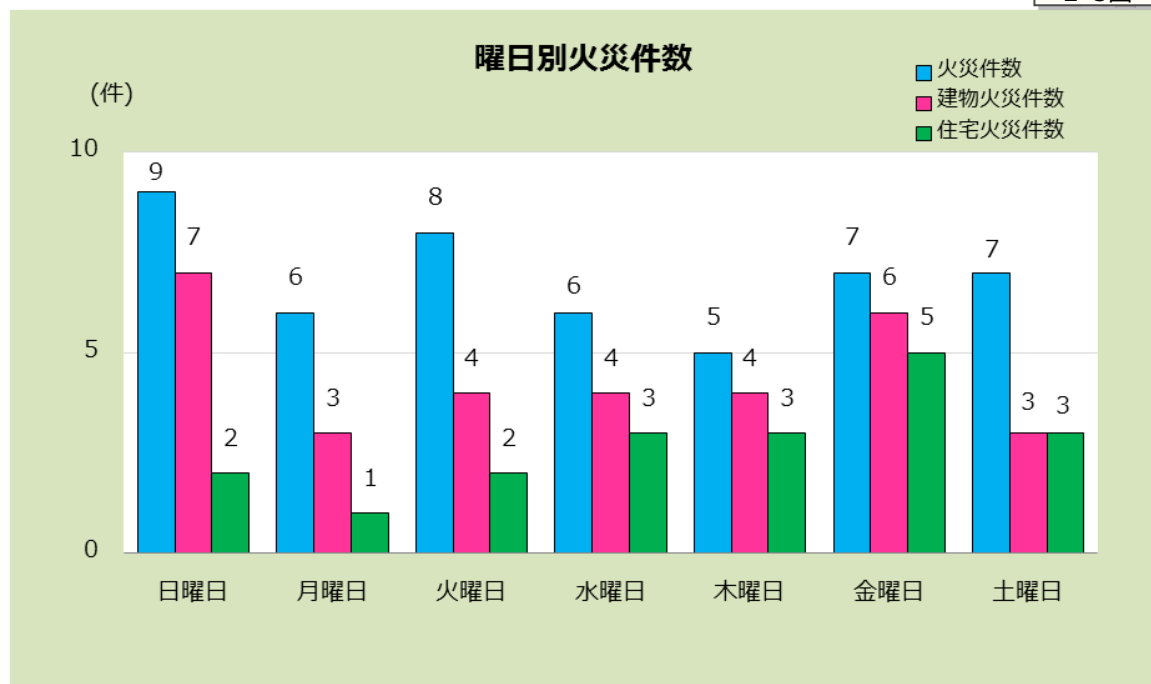
平成29年の火災発生状況を月別にみると、4月に11件と最も多く、次いで3月、12月に6件発生しています（2-2図）。



## 曜日別火災発生状況

平成29年の火災件数を曜日別にみると、日曜日が最多で9件発生しています。週末にあたる金、土、日曜で23件発生しています（2-3図）。

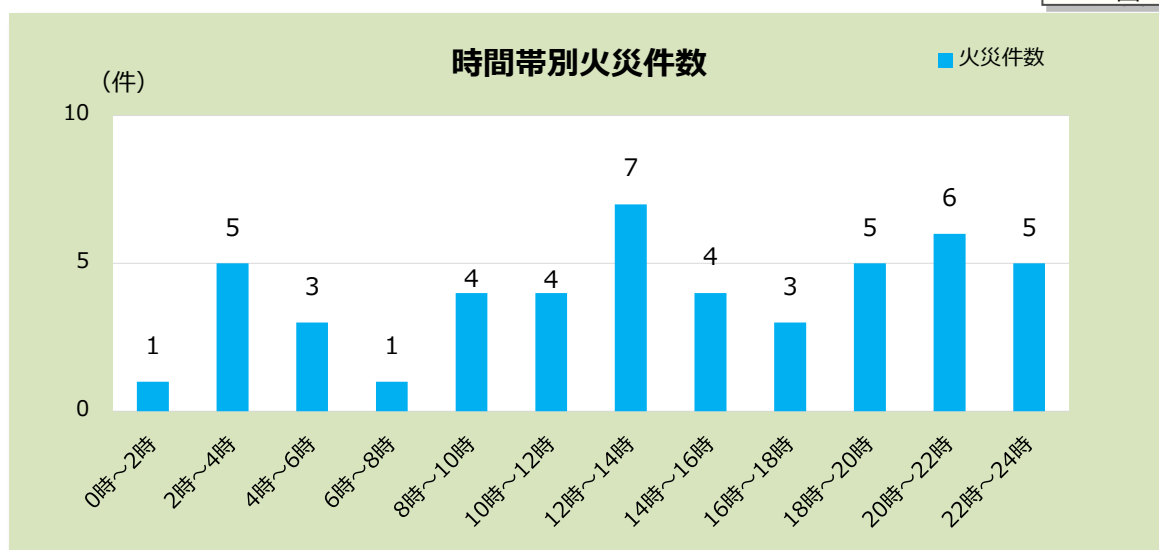
2-3図



## 時間帯別火災発生状況

平成29年の火災件数を時間帯別にみると、18時から24時までに16件発生しています（2-4図）。

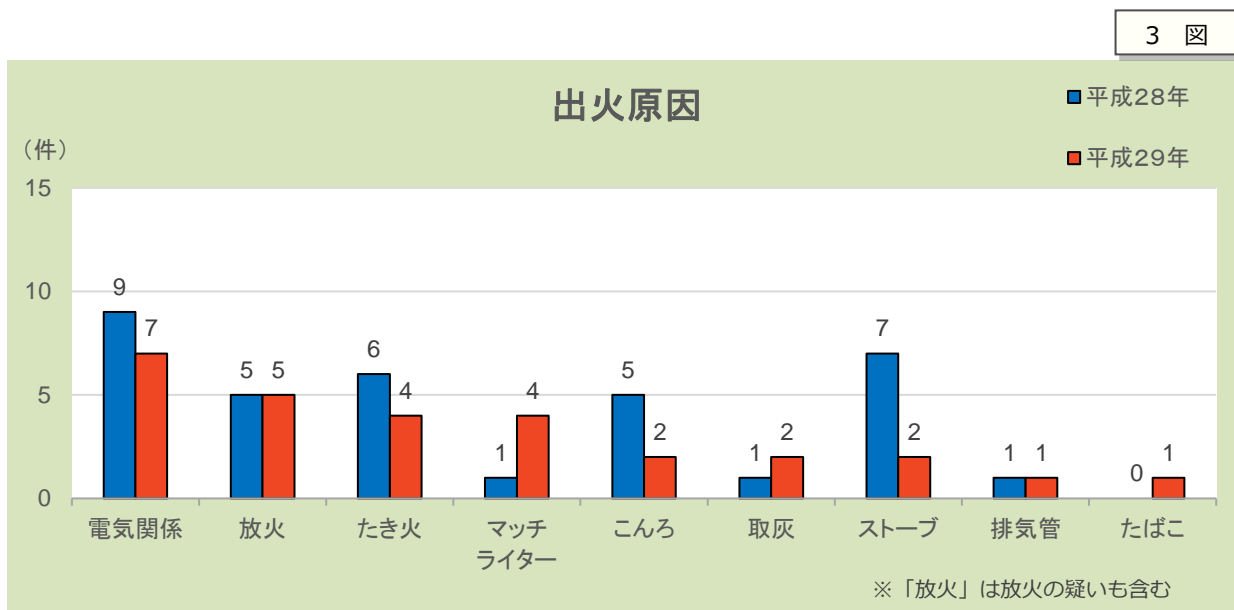
2-4図



### 3 出火原因

#### 出火原因は「電気関係」が1位

平成29年の出火原因は、昨年と同じく「電気関係」が7件で最も多く、次いで「放火」が5件、「たき火」・「マッチ・ライター」が4件となっています（3図）。



#### 【火災原因の内訳・説明】

- 電気関係
  - 電気配線・コード等の短絡 3件
  - 電気機器による発熱等 4件
- 放火、放火の疑い
  - 放火自殺 1件
  - 放火自殺以外 4件
- たき火
  - 付近の枯草等に延焼拡大 4件
- こんろ
  - 卓上型ガスコンロからの出火 1件
  - 石油コンロからの出火 1件
- 取 灰：残火のある灰が原因となって出火したもの
- 排 気 管：車両エンジン等内燃機関の高温になった排気管が原因となって出火したもの

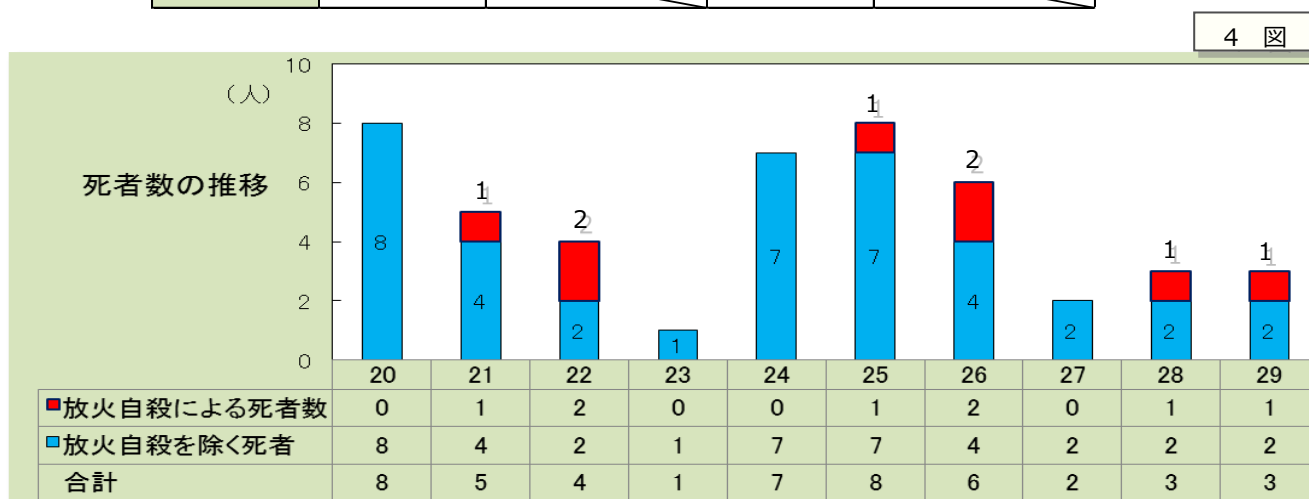
## 4 火災による死傷者

### 火災による死者は3人、負傷者は10人

平成29年の建物火災による死者数は3人で、前年と同数となっています。負傷者数は10人で、前年より2人減少しています（4表、4図）。

4 表

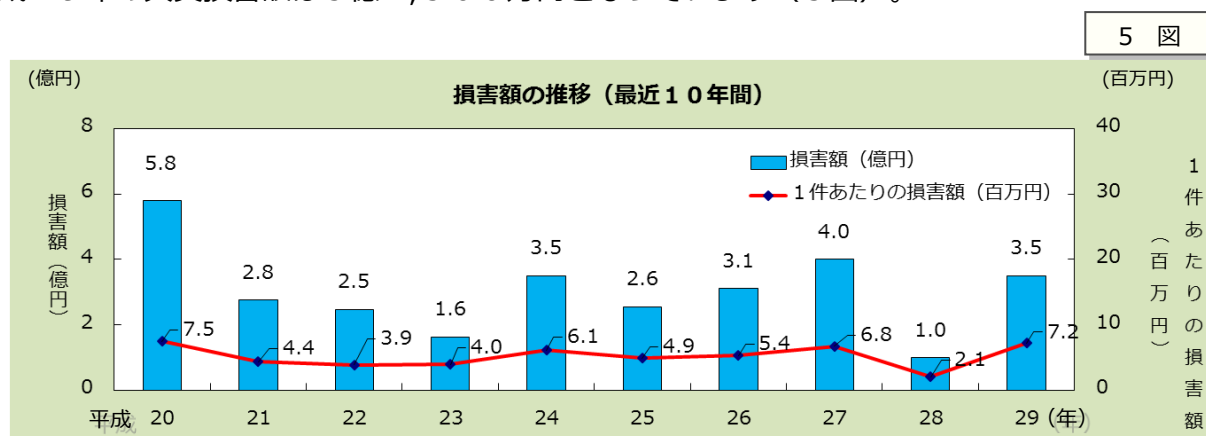
火災による死傷者				
	平成28年		平成29年	
		うち放火自殺者		うち放火自殺者
死者(人)	3	1	3	1
負傷者(人)	12		10	



## 5 損害額の推移

### 火災による損害額の推移

平成29年の火災損害額は3億4,560万円となっています（5図）。

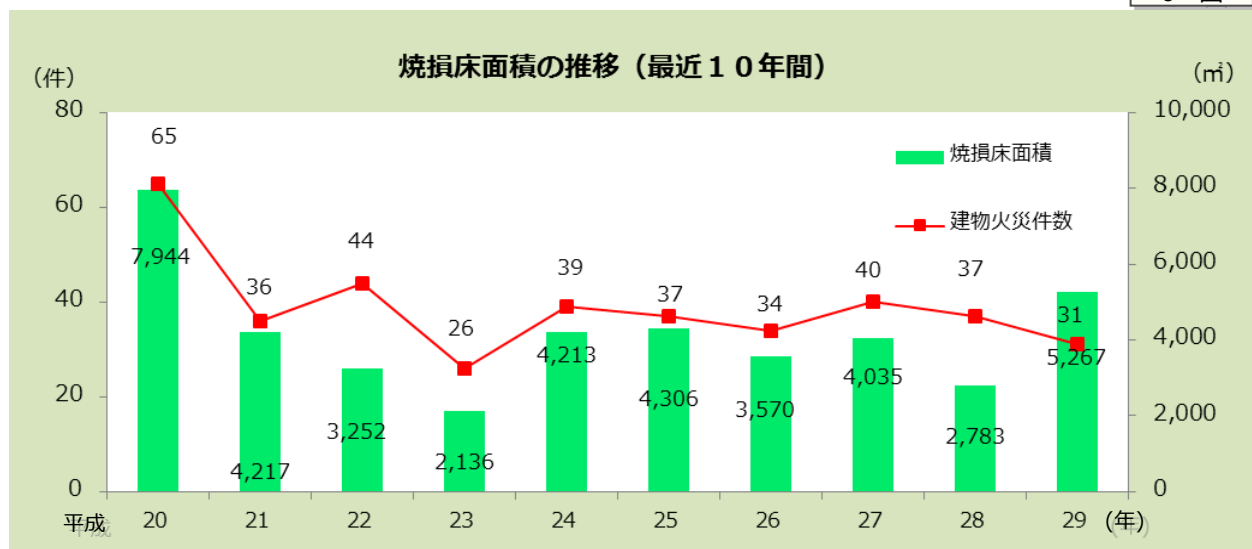


## 6 焼損面積の推移

### 焼損床面積は5,267㎡

平成29年の火災による焼損床面積は5,267㎡で、前年より2,484㎡増加しています（6図）。

6 図



## 7 住宅火災の状況

### 住宅火災の損害状況

住宅火災1件あたりの焼損棟数は例年の約2倍となっています（7表）。

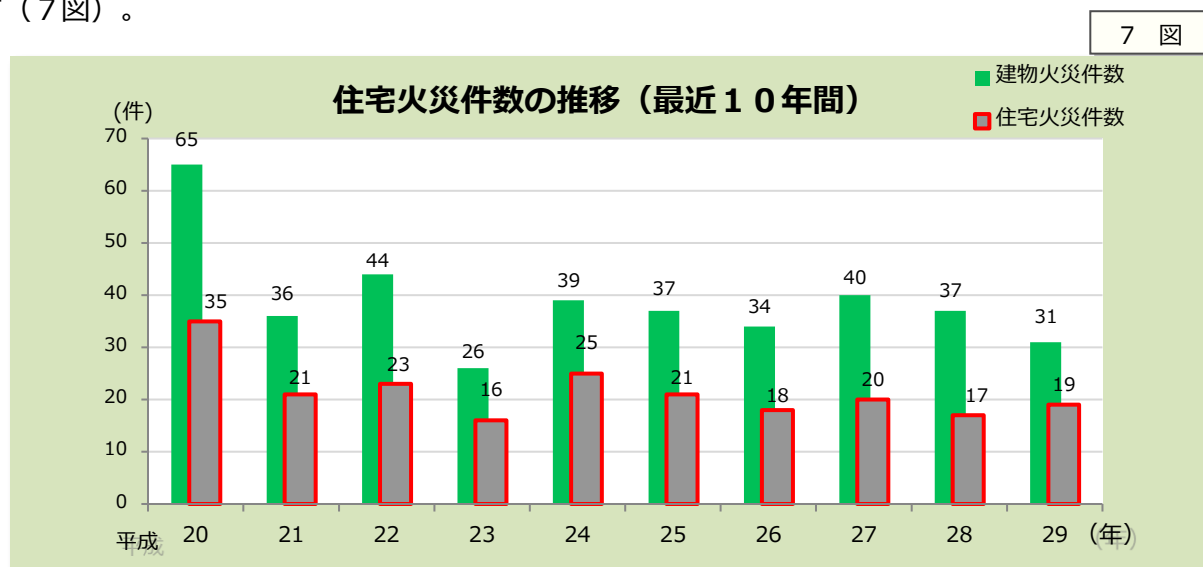
7 表

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	過去5年平均	平成29年
建物火災件数	39	37	34	40	37	37.4	31
うち住宅火災	25	21	18	20	17	20	19
住宅火災割合	64%	57%	53%	50%	46%	54%	61%
焼損棟数（棟）	59	64	53	57	53	57	78
うち住宅火災	40	39	28	32	28	33	60
住宅火災1件あたり	1.6	1.9	1.6	1.6	1.6	1.7	3.2
損害額（千円）	340,610	241,913	306,463	393,646	103,868	277,300	345,603
うち住宅火災	259,696	141,862	100,255	54,354	67,750	124,783	172,048
住宅火災1件あたり	10,388	6,755	5,570	2,718	3,985	5,883	9,055



## 住宅火災件数の推移

住宅用火災警報器の一般住宅への設置が義務化された平成18年以降、住宅火災は減少傾向にあります（7図）。



※住宅火災とは：専用住宅、共同住宅の住戸部分及び併用住宅（住居部分の面積が延べ面積の20%以上であるものに限る。）の住宅部分から出火した火災をいう。

## 8 住宅用火災警報器

### 住宅用火災警報器の設置率

平成29年6月1日時点における住宅用火災警報器の設置率は93.8%、条例適合率は79.0%となっています（8-1表）。

8-1表

	設置率※	条例適合率※
上越地域消防	93.8%	79.0%
新潟県	83.7%	66.1%
全国	81.7%	66.4%

※設置率：火災予防条例において設置が義務付けられている住宅の部分（すべての寝室と寝室が2階にある場合は階段の上部）のうち、1か所以上設置されている世帯の全世帯に占める割合

※条例適合率：火災予防条例において設置が義務付けられている住宅の部分（すべての寝室と寝室が2階にある場合は階段の上部）のすべてに設置されている世帯の全世帯に占める割合

住宅用火災警報器を設置していたことで助かった事例(奏功事例)

8-2表

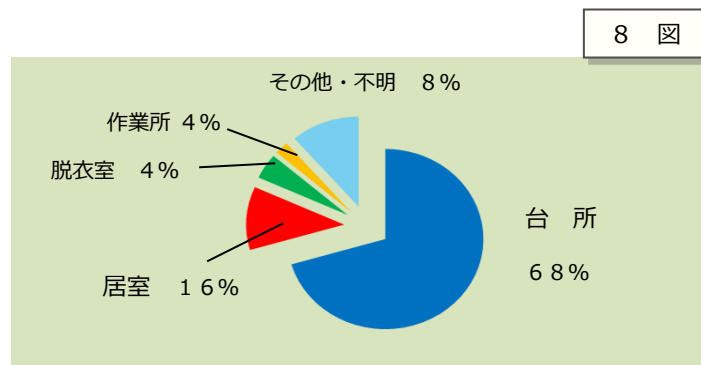
奏功事例件数						
年	奏功事例 件数(件)	被害程度(件)				
		被害なし	ぼや	部分焼	半焼	全焼
平成18年	2	1	1			
平成19年						
平成20年	4	3				1
平成21年						
平成22年	4	2		1		1
平成23年	7	3	1	2		1
平成24年	8	4		1	1	2
平成25年	6	3	1	2		
平成26年	4	4				
平成27年	5	4	1			
平成28年	4	1	1	2		
平成29年	2	2				
合計(件)	46	27	5	8	1	5
割合(%)	100.0	58.7	10.9	17.4	2.1	10.9

8-3表

平成29年の奏功事例内訳			
発生年月	建物用途	被害状況	奏功内容
平成29年5月	専用住宅	被害なし	こんろに火をつけたまま放置したことで金属鍋から煙が発生。住宅用火災警報器の鳴動に気付いた家人が、鍋に水を入れ、火災を未然に防ぐ。
平成29年7月	専用住宅	被害なし	就寝中の家人が、寝室の住宅用火災警報器の鳴動で目を覚ますと、部屋に煙が充満していた。室内に置かれた電気機器の作動油が過熱したモーターに付着して発煙したものの。

## 台所への設置も効果があります

統計を取り始めた平成18年以降、住宅用火災警報器が設置されていたことで火災を未然に防いだり、被害が少なくて済んだ事例のうち、約70%が台所に関する事案となっています（8図）。



## 住宅用火災警報器は10年を目安に交換しましょう！

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池の寿命などで煙や熱を感知しなくなるおそれがあります。住宅用火災警報器は10年を目安に交換しましょう。

上越地域消防では平成29年5月からの1か月間、「住宅用火災警報器設置対策強化月間」とし、住宅用火災警報器の定期的な点検や交換などの維持管理を呼びかけるとともに、住宅用火災警報器の設置状況や維持管理状況等に関するアンケート調査を行いました。

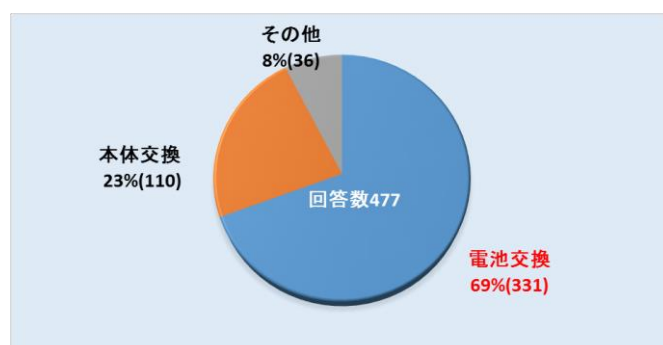
### 〈アンケート結果〉

問) ご自宅の住宅用火災警報器が電池切れになったものはありますか？



全回答数の5%の割合ではありますが、16件のお宅で電池切れが発生している状況です。今後、電池切れを迎えるお宅が増えると予想されます。

今後、住宅用火災警報器が電池切れになった場合、どのように対応しようとお考えですか？



内蔵の電池を交換することができるのは一部のメーカーの製品に限られます。機器本体の故障の可能性もあるため、本体交換を推奨しています。

## 9 火災状況比較

9 表

年 別		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	過去10年 平 均	
区 分								
火 災 件 数		52	58	59	50	48	60	
建 物 火 災	建 物 火 災	37	34	40	37	31	42	
	うち住宅火災	21	18	20	17	19	22	
	住 設 警 置 器 状 況	設置あり (一部設置含む)	16	13	9	11	8	
		設置なし	4	3	7	4	8	
		不明	1	2	4	2	3	
	林 野 火 災	4	2	1	2	2	2	
	車 両 火 災	8	10	12	6	8	10	
	船 舶 火 災	0	0	0	0	0	0	
	そ の 他 の 火 災	3	12	6	5	7	6	
	焼 損 棟 数		64	60	57	53	78	64
り 災 世 帯		35	37	26	27	42	36	
り 災 人 員		86	86	58	76	103	96	
建物焼損床面積 (㎡)		4,306	3,570	4,035	2,783	5,267	4,225	
建物焼損表面積 (㎡)		484	304	246	203	665	320	
林野焼損面積 (a)		25	603	60	141	259	97	
損 害 額 (千円)		255,953	311,169	404,553	103,868	345,603	490,861	
死 者 合 計 (人)		8	6	2	3	3	5	
(うち放火自殺者)		(1)	(2)	(0)	(1)	(1)	(1)	
建 物 火 災		7	4	1	2	3	3	
林 野 火 災		0	0	0	0	0	0	
車 両 火 災		0	1	1	0	0	0	
そ の 他 火 災		1	1	0	1	0	1	
負 傷 者 合 計 (人)		10	7	11	12	10	15	
建 物 火 災		10	2	10	8	7	13	
林 野 火 災		0	2	0	1	1	0	
車 両 火 災		0	0	1	0	1	1	
そ の 他 火 災		0	3	0	3	1	1	

## 10 管内地域別署所別火災状況比較

10 表

市(地域)	火災件数		焼損棟数		り災世帯数		死傷者数 (死者数)		建物焼損 床面積 (㎡)		損害額 (千円)		出火率 ※1	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H29	
合計	50	48	53	78	27	42	15(3)	13(3)	2,783	5,267	103,868	345,603	2.1	
上越市	旧上越市	22	21	28	41	14	24	4	8(2)	706	2,496	47,748	213,729	2.1
	安塚区	1	2	1	1	1				281	439	1,297	50,556	8.2
	浦川原区	1	1	1		1		2		33		4,577		2.9
	大島区	1		1								886		0.0
	牧区	2		2		1		2(1)		127		6,495		0.0
	柿崎区	3	4	3	10		4	1	2(1)	93	628	5,532	13,038	4.1
	大潟区	1	3		5		2				614	1,590	19,225	3.2
	頸城区	1	4		2							13	398	4.2
	吉川区	2	2	2	3	1	1		1	233	199	4,416	3,618	4.8
	中郷区	1	1	3	1	2	1			167		3,008	2	2.6
	板倉区	2	1	1	1		1			33		992	4	1.5
	清里区													0.0
	三和区	1	1	1	1					1	10	248	81	1.8
	名立区													0.0
小計	38	40	43	65	20	33	9(1)	11(3)	1,674	4,386	76,802	300,651	2.0	
妙高市	新井地域	5	8	5	13	4	9	4(1)	2	479	881	13,213	44,952	3.3
	妙高原地域	3		3		2		1		265		3,376		0.0
	妙高地域	4		2		1		1(1)		365		10,477		0.0
	小計	12	8	10	13	7	9	6(2)	2	1,109	881	27,066	44,952	3.3
上越南消防署	13	16	22	33	10	17	3	6(2)	636	1,944	25,870	180,988	1.8	
上越北消防署	9	9	5	10	3	7	1	2	63	552	21,034	33,139	1.7	
新井消防署	8	10	9	15	6	11	4(1)	2	679	881	17,213	44,958	2.8	
頸北消防署	6	9	5	18	1	7	1	3(1)	326	1,441	11,538	35,881	3.8	
頸南消防署	7		5		3		2(1)		630		13,853		0.0	
東頸消防署	3	3	3	1	2		2		314	439	6,760	50,556	4.1	
高士分遣所	4	1	4	1	2		2(1)		135	10	7,600	81	0.8	
名立分遣所													0.0	

※1 出火率：人口1万人あたりの出火件数

参考：平成28年出火率 全国2.88 新潟県2.47

## 救急編

### 1 救急出動状況

#### 救急出動件数は9,365件

平成29年の救急出動件数は9,365件で、前年より312件増加しています。1日平均25.7件、約56分に1回の割合で救急車が出動したことになります（1-1表）。

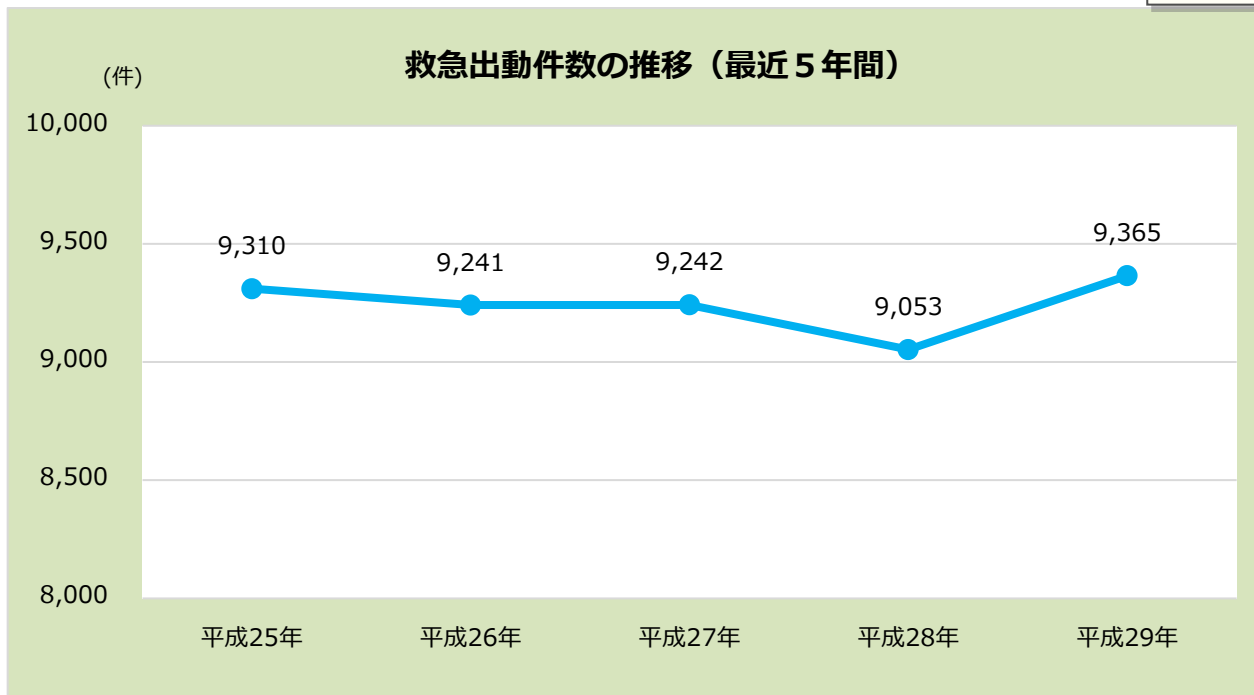
1-1表

救急出動状況			
	平成28年	平成29年	増減
出動件数（件）	9,053	9,365	312
搬送人員（人）	8,560	8,959	399

#### 救急出動件数の推移

最近5年間の救急出動件数の推移をみると、平成28年に一時的に減少しましたが、ほぼ横ばいとなっています（1-1図）。

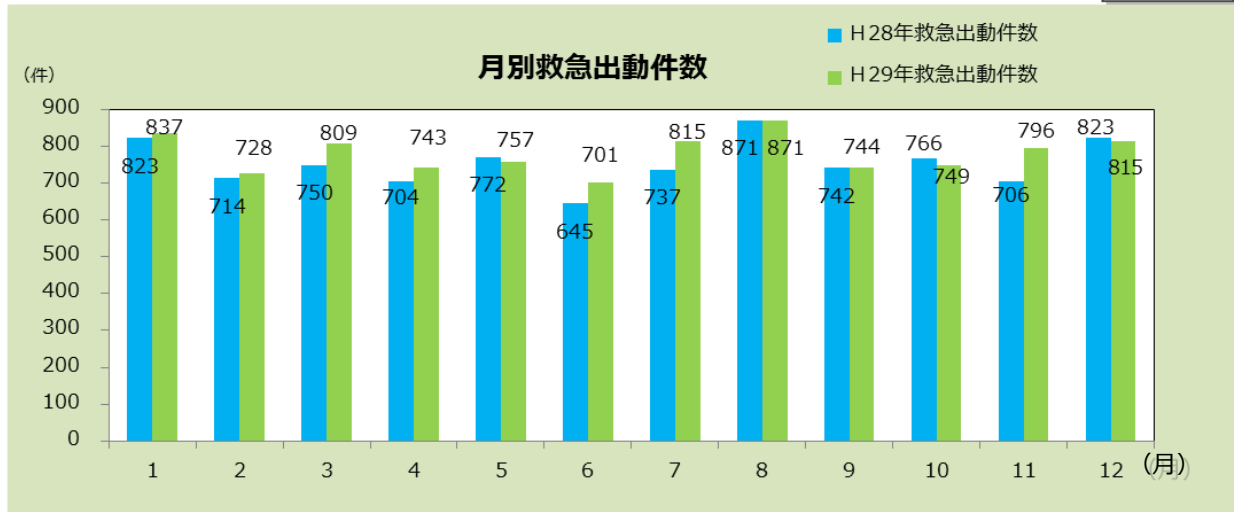
1-1図



## 月別救急出動状況

平成29年の救急出動件数は毎月700件を超えています（1-2図）。

1-2図



## 事故種別救急出動状況

平成29年の救急出動件数について事故種別をみると、「急病」が5,793件で最も多く、次いで「一般負傷」が1,493件となっています（1-2表）。

1-2表

	平成28年(件)	平成29年(件)	増減(件)
急病	5,486	5,793	307
一般負傷	1,432	1,493	61
交通事故	627	627	0
自損行為	114	82	▲32
労働災害	118	100	▲18
火災	55	17	▲38
運動競技	87	68	▲19
加害	27	31	4
水難事故	10	16	6
自然災害	4	1	▲3
その他	47	48	1
転院搬送	1,046	1,089	43
合計	9,053	9,365	312

## 2 救急搬送人員

### 救急搬送人員は、8,959人

平成29年の救急搬送人員は8,959人で、高齢者が66.4%を占めています（2表）。

2 表

救急搬送状況								
	新生児 (人)	乳幼児 (人)	少年 (人)	成人 (人)	高齢者 (人)	高齢者の割合 (%)	合 計	割合 (%)
旧上越市	13	166	174	1,423	3,098	63.6	4,874	54.4
安塚区		1	3	30	104	75.4	138	1.5
浦川原区		10	7	44	105	63.3	166	1.9
大島区		3	1	21	72	74.2	97	1.1
牧区				13	64	83.1	77	0.9
柿崎区		8	10	93	332	74.9	443	4.9
大潟区		12	5	107	202	62.0	326	3.6
頸城区		13	11	73	199	67.2	296	3.3
吉川区		4	1	28	134	80.2	167	1.9
中郷区		1	9	38	102	68.0	150	1.7
板倉区		2	8	35	152	77.2	197	2.2
清里区		2	2	9	91	87.5	104	1.2
三和区		14	6	41	117	65.7	178	2.0
名立区		4		34	106	73.6	144	1.6
新井地域		24	29	267	748	70.0	1,068	11.9
妙高高原地域		8	15	129	210	58.0	362	4.0
妙高地域		6	10	39	110	66.7	165	1.8
他市町村			1	3	3	42.9	7	0.1
合 計	13	278	292	2,427	5,949	66.4	8,959	100

※年齢区分

新生児：生後28日未満

乳幼児：7歳未満

少年：7歳以上～18歳未満

成人：18歳以上65歳未満

高齢者：65歳以上



### 3 5年間の救急搬送人員の推移

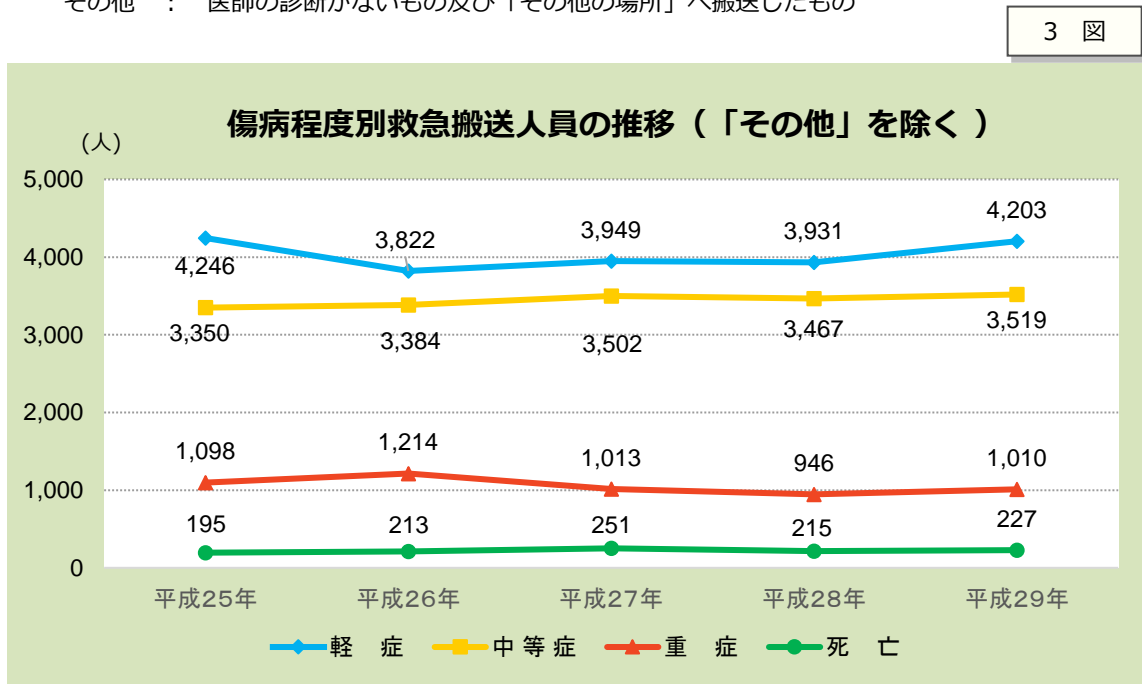
#### 傷病程度別救急搬送人員の推移

傷病程度別救急搬送人員の推移は3表、3図のとおりです。

3 表					
傷病程度別救急搬送人員（最近5年間）					
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
軽 症	4,246 (47.8%)	3,822 (44.3%)	3,949 (45.3%)	3,931 (45.9%)	4,203 (46.9%)
中等症	3,350	3,384	3,502	3,467	3,519
重 症	1,098	1,214	1,013	946	1,010
死 亡	195	213	251	215	227
その他		1	1	1	
合 計	8,889	8,634	8,716	8,560	8,959

※傷病程度

- 軽 症 : 入院を要しないもの
- 中等症 : 21日未満の入院を要するもの
- 重 症 : 21日以上入院を要するもの
- 死 亡 : 初診時死亡が確認されたもの
- その他 : 医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの





# 上越地域消防の救急隊



平成29年

救急出動件数 9,365件      1日あたりの出動回数 およそ25.7件

救急車の台数 11台      救急救命士数 62人

出動から現場到着までの時間 およそ 9.3分

## 救急資器材



救急車内には血圧や呼吸状態、心電図などを測定する観察用モニター、AED、自動心マッサージ器など100種類以上の資器材が装備されており、傷病者の容態に合わせた救急処置を行うことができます。

## ～救急救命士による高度な救命処置～



薬剤（アドレナリン）投与

心停止の傷病者に対し心臓機能の強化のため、薬剤を投与します



血糖測定及びブドウ糖投与

血糖値を測定し、低血糖時は点滴によりブドウ糖を投与します



高度気道確保

口にチューブを入れて空気の通り道（気道）を確保します

## 救助編

### 1 救助出動状況

#### 救助出動件数は57件

平成29年の救助出動件数は57件で、前年より16件減少しています。また、活動件数は26件で、前年より12件減少しています（1表）。

1 表

救助出動状況						
事故種別	出動件数(件)			活動件数(件)		
	平成28年	平成29年	増減	平成28年	平成29年	増減
火災	3	1	▲2	3	1	▲2
交通事故	50	37	▲13	24	11	▲13
水難事故	4	5	▲1	4	4	0
自然災害	0	3	▲3	0	2	▲2
機械事故	2	3	▲1	0	1	▲1
建物等事故	1	2	▲1	1	2	▲1
ガス酸欠事故	0	0	0	0	0	0
破裂事故	0	0	0	0	0	0
その他事故	13	6	▲7	6	5	▲1
合計	73	57	▲16	38	26	▲12

※ 「その他事故」：山岳事故、転落事故など



国道18号線 トラック追突事故

## 2 地域別救助出動状況

2 表

地域別救助出動件数											
		救助事故種別（件）							出動件数（件）		増減
		火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物等事故	その他事故	平成29年	平成28年	
上越市	旧上越市	1	13	4	2	1	1	2	24	28	▲4
	安塚区		1						1	0	1
	浦川原区		3						3	3	0
	大島区								0	3	▲3
	牧区							1	1	2	▲1
	柿崎区		2						2	4	▲2
	大湊区		3						3	2	1
	頸城区		1			1			2	2	0
	吉川区		1						1	2	▲1
	中郷区		3				1		4	3	1
	板倉区								0	4	▲4
	清里区								0	0	0
	三和区								0	2	▲2
	名立区		3						3	4	▲1
		小計	1	30	4	2	2	2	3	44	59
妙高市	新井地域		4	1				1	6	5	1
	妙高高原地域		1			1			2	3	▲1
	妙高地域		1		1			2	4	6	▲2
	小計	0	6	1	1	1	0	3	12	14	▲2
他市町村		1						1	0	1	
合計	平成29年	1	37	5	3	3	2	6	57	73	▲16
	平成28年	3	50	4	0	2	1	13	73		
増減		▲2	▲13	1	3	1	1	▲7	▲16		

## 3 地域別救助人員状況

3 表

地域別救助人員											
		救助事故種別（人）						救助人員（人）		増減	
		火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物等事故	その他事故	平成29年		平成28年
上越市	旧上越市		3	1	4		1	2	11	16	▲5
	安塚区		1						1	0	1
	浦川原区		2						2	1	1
	大島区								0	2	▲2
	牧区							1	1	2	▲1
	柿崎区								0	1	▲1
	大潟区								0	1	▲1
	頸城区		1						1	0	1
	吉川区								0	1	▲1
	中郷区		2				1		3	1	2
	板倉区								0	2	▲2
	清里区								0	0	0
	三和区								0	1	▲1
	名立区								0	3	▲3
	小計	0	9	1	4	0	2	3	19	32	▲13
妙高市	新井地域		2					1	3	2	1
	妙高高原地域								0	2	▲2
	妙高地域				1			1	2	2	0
	小計	0	2	0	1	0	0	2	5	6	▲1
他市町村								0	0	0	
合計	平成29年	0	11	1	5	0	2	5	24	38	▲14
	平成28年	2	26	3	0	0	1	6	38		
増減		▲2	▲15	▲2	5	0	1	▲1	▲14		

## 4 高速道路出動状況

### 出動件数は58件

平成29年の高速道路への出動件数は58件で、前年より6件減少しています（4-1表）。  
高速道路別の出動状況は4-2表のとおりです。

4-1表

高速道路出動状況			
事故種別	平成28年 (件)	平成29年 (件)	増減
火災出動	1	1	0
救急出動	41	39	▲2
救助出動	10	6	▲4
その他	12	12	0
合計	64	58	▲6

※「その他」：高速道路上の交通事故に伴う安全管理や救急支援活動など

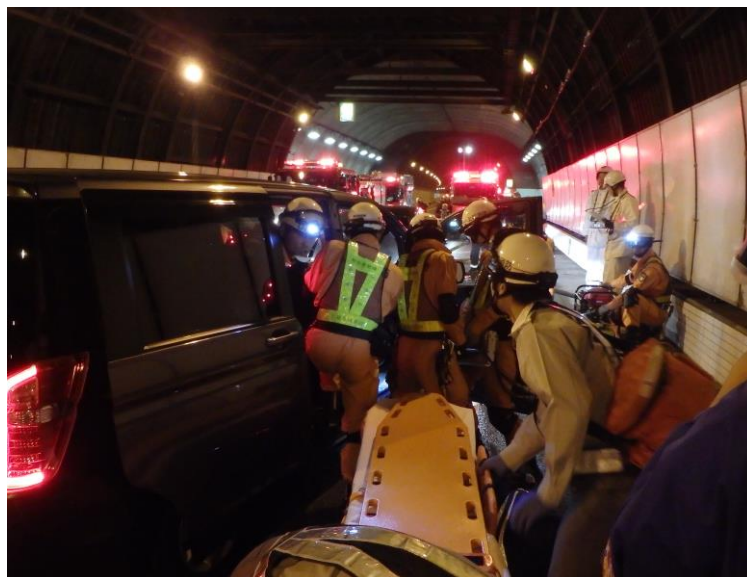
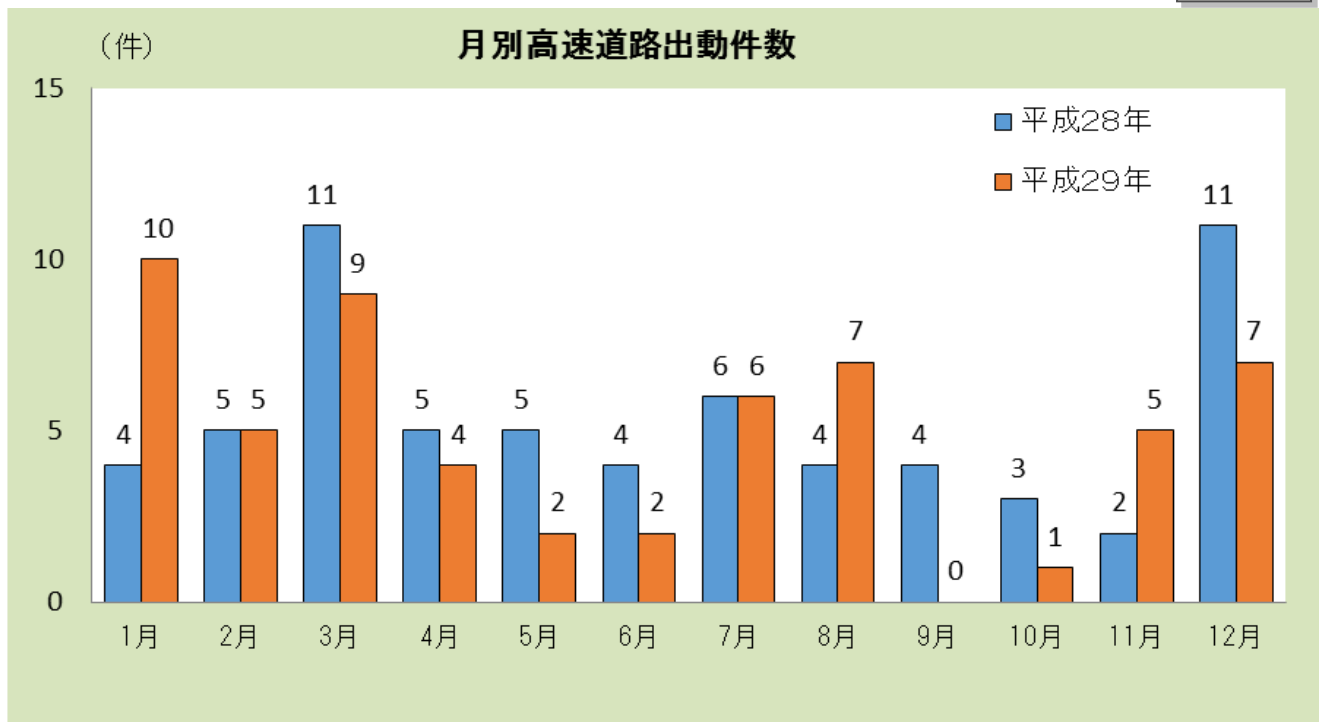
4-2表

高速道路別出動状況							
	出動種別(件)				出動件数(件)		
	火災出動	救急出動	救助出動	その他	平成28年	平成29年	増減
北陸自動車道	1	27	5	7	31	40	9
上信越自動車道	0	12	1	5	33	18	▲15
合計	1	39	6	12	64	58	▲6

## 月別高速道路出動状況

平成29年の高速道路出動状況を月別にみると、1月と3月に約10件発生しており、出動が多くなっています（4図）。

4 図



高速道路トンネル内連携訓練

## （仮称）消防本部・上越北消防署庁舎について



運用開始 平成32年春（予定）

### 【所在地】

上越市藤野新田地内

### 【建物概要】

庁舎棟（地上5階建）、訓練棟（3棟）ほか

### 【市民向け施設】

講習会（大会議室）、車両見学（PRコーナー）、消火・濃煙体験（訓練棟）



## 上越地域消防事務組合組織一覧

<b>消 防 本 部</b>	上越市北城町1丁目16番1号	025-525-1199 (代 表)
		025-525-1195 (総 務 課)
		025-525-1196 (消防防災課)
		025-525-1197 (予 防 課)
<b>上越南消防署</b>	上越市北城町1丁目16番1号	025-525-1198
<b>上越北消防署</b>	上越市大字春日新田1311番地の1	025-544-0119
<b>新井消防署</b>	妙高市諏訪町1丁目7番8号	0255-72-7119
<b>頸北消防署</b>	上越市柿崎区柿崎631番地の2	025-536-6119
<b>頸南消防署</b>	妙高市大字田切629番地	0255-86-3119
<b>東頸消防署</b>	上越市安塚区松崎639番地	025-592-0119
<b>高士分遣所</b>	上越市大字高津424番地の2	025-528-4044
<b>名立分遣所</b>	上越市名立区名立大町365番地1	025-537-2301

